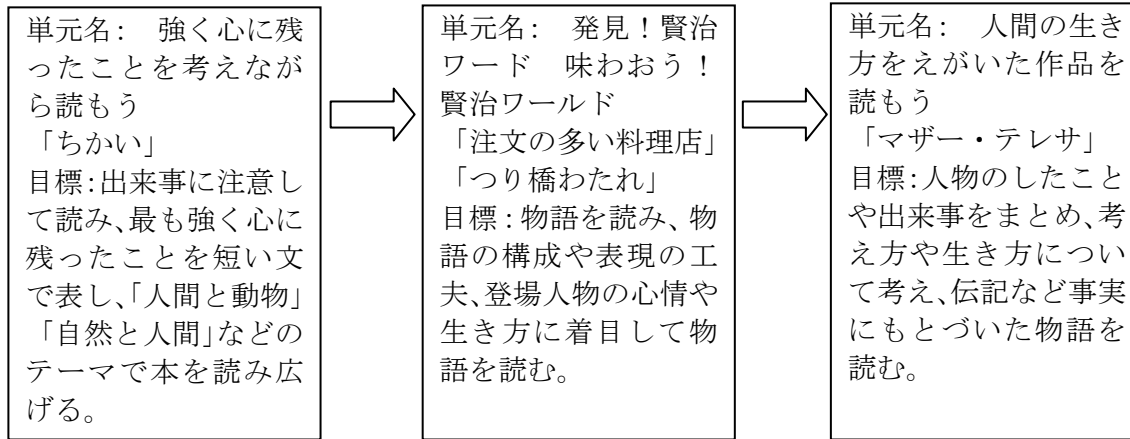


国語科学習指導案

1. 年・組 第5学年
2. 単元名 「発見！賢治ワード 味わおう！賢治ワールド」
(教科書教材：「注文の多い料理店」 関連教材：「つり橋わたれ」
その他 宮沢賢治の作品)
3. 単元の関連



4. 単元の目標

- 宮沢賢治特有の表現を味わい作者の意図や工夫をおさえることで、物語の内容を自分なりに読み広げたり読み深めたりしようとする。
 - ・ 登場する人物像について、心情や性格、考え方などを、表現や叙述と関係付けて読み取ることができる。
 - ・ 作品や作者特有の表現や構成に着目して、比べ読みをしたり読み広げたりする活動を通して、作者や作品について自分なりの意見を持ち、内容や感想を発表することができる。

5. 指導にあたって

(単元観)

本単元では、「表現や叙述と関係付けて読み取ることによって宮沢賢治特有の表現を味わい作者の意図や工夫に迫り、物語の内容を自分なりに読み広げたり読み深めたりしようとする」力を身につけることを目的としている。また、筆者の表現を味わい、自分なりに読み広げたり読み深めたりするために、同じ筆者の物語を比べ読みすることで、国語科で培った読解力が、読書へ結びつくことをもねらっている。

主教材「注文の多い料理店」は、動物の命を大切に思わない二人の紳士が自分の快樂のために狩をしに森へやってくるころから場面が描かれている。森の案内人も連れてきた犬もいなくなってしまい、帰ろうとするが帰れない。そこで、山猫軒を見つける。お腹が減った傲慢な紳士たちは、何枚もの扉に書かれている言葉を全て自分たちの都合のいいように解釈していく。最後になって自分たちが注文されて料理になることに気付くのである。逃げようとするが逃げられない。そのとき二人の紳士を助けに死んだはずの犬がやってきた。こうして二人は山猫軒から開放される。二人の紳士は、恐い思いをしたときのくしゃくしゃの紙くずのような顔にはなったものの、このような恐い出来事に遭おうとも人となりは変わることなかったという物語である。賢治独自の表現や言葉遊びがふんだんに入った作品であり、賢治の考え方がよく表れている作品である。同じキーワードの繰り返しにより場面展開が図られているため、物語の構成が読み取りやすく、ストーリーも児童が興味・関心を持続しながら読み進めることができる内容である。本単元で「注文の多い料理店」を学習することで、表現のおもしろさに気づき、読書への関心が高まると思われる。

本単元では、「注文の多い料理店」を大きく三つの場面で分けるようにする。第一場面は、場面設定や紳士の様子である。そこから賢治から見た紳士の人となりを読み取ることができる。第二場面は、山猫軒での紳士の様子や山猫のやりとりをしているところである。ここでも賢治の思う

紳士の性格や考え方がよく表れており、紳士的心情や山猫軒の不思議さを十分に感じ取ることができる。第三場面は、助かった後の紳士の様子が描かれているところである。恐い思いをしても人となりはすぐに変わることがないという、賢治の紳士に対する思いが鮮明に描かれている。しかし、顔はくしゃくしゃにさせることで、山猫軒での出来事に意味を残すようにした、賢治の作品に対する思いも感じられる。

副教材「つり橋わたれ」は、第三学年の教材文であり、五年生の児童にとっては比較的短い時間で読み終えることができ、内容も簡単であると考えられる。主教材「注文の多い料理店」と同じく「風」が吹くことで場面の展開が図られており、主教材の構成に気づく上で有効な資料となる。

比べる視点	主教材「注文の多い料理店」	副教材「つり橋わたれ」
構成を考える上での重要文(物語のしかけ)	「風がどうとふいてきて、草はザワザワ、木の葉はカサカサ、木はゴトンゴトンと鳴りました。」	「どっと風がふいて」
構成	現実→非現実→現実	現実→非現実→現実
登場人物の変容	<ul style="list-style-type: none"> ・二人のしんしは紙くずのような顔になった。 ・二人のしんしの人となりは以前と変わらなかった。 ・人間的な成長がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トッコはつり橋を渡ることができるようになった。 ・トッコは山の子たちと友達になり、山のくらしが楽しくなった。 ・人間的に成長している。

上記の表に挙げた視点で読み取ることで、二作品の共通点や相違点を浮かび上がらせていきたい。このような読み取りを行うことで作品に対する作者の意図についても考えるきっかけになると思われる。

年間指導計画の中での関連では、第四学年の教材「ごんぎつね」で、場面と場面の関係に注意して、気持ちの変化を想像しながら読む学習をしている。第五学年の七月には「ちかい」で、出来事を短くまとめる学習をしてきた。内容を理解することはできるようになってきているが、表現のよさや表現の効果に着目していないため、作品を読み味わい作品の面白さを実感するところまで至っていない。

そこで本単元では、情景などの表現に着目させたり、表現のよさや表現の効果などを感じ取ったりして、味わいながら作品に親しむことができるようにしたい。そして、物語を読解した後に賢治の他の作品を読み、教材文に出てきた表現のよさや表現の効果と読み比べることで賢治の作品を読み深めていきたい。そのことでさらに賢治独自の表現のおもしろさにふれることができ、賢治の作品に対する思いをとらえることができると考える。また賢治の作品に対する思いから発展し、人物の考え方や生き方について考えることは、次単元「マザー・テレサ」で伝記を読み取る学習につながっていく。このような読解・読書活動が、第六学年で学習する「宮沢賢治」の単元において、賢治の生き方・考え方を伝記より読み取り、筆者の視点に立って作品を読むことにつながると考えられる。

(指導観)

「表現のおもしろさを考え、物語の内容を自分なりに読み広げたり読み深めたりする」ために、表現の工夫や表現の効果を読み取る学習活動を行いたい。副教材と読み比べることにより、より明確に表現の効果や作者の思いを読み取ることができる。また、宮沢賢治の複数の作品を比べて読むことで、より作者の作品に対する思いに迫り、読書への関連付け・意欲付けを図ってきたい。本単元の学習に入る前に「つり橋わたれ」の読み聞かせをし、音読の宿題として設定し物語の内容を理解させておく。また、宮沢賢治の作品のブックトークをして興味・関心をもって学習に臨むことができるようにしたい。

第Ⅰ次では、題名を読み、「料理店」について感じたことを話し合った後、主教材「注文の多い料理店」を全文通読する。そして、疑問や感想を交流して学習課題を立てる。また、学習のまとめとして、「ガイドブック」を用いて賢治の他の作品を読み、賢治の表現の工夫を讀みの視点にもって読み比べ、「発見！！あるある賢じ典」を作成し発表するという学習の見通しをもたせる。

第Ⅱ次では、物語の読み取りを通して、賢治の表現の工夫や効果的な表現を集めた「賢治ワードガイド」を作り、讀みの視点を「ガイドブック」にまとめていくようにする。そうすることで

物語の読解のポイントが明確になり、第Ⅲ次での一人学習を進めていくヒントカードにもなっていくと考える。また、毎回の授業後、「やったね！カード」を用いて児童が自己評価を行うとともに、指導者が次回の学習に向けて内容の補充や助言を行っていく手立てとしたい。「注文の多い料理店」は、大きく三つの場面に分けて学習する。第一場面は、場面の様子や紳士の人となりがかかれていた場面である。状況と紳士の人となりをおさえることで物語をより想像しやすく展開が明確になると考える。「ガイドブック」では、比喩とオノマトペをおさえるようにする。第二場面では、山猫軒での出来事である。ここでは扉に書かれている表現や色の効果、言葉遊びや構成をおさえ、紳士の様子や心情を読み取っていく。文章の構成を考える手立てとして、「注文の多い料理店」と同じ‘風’がキーワードとなる「つり橋わたれ」と読み比べるようにする。第Ⅲ次で比べ読みをするときに生かされるよう、比べ読みの仕方についてここでおさえるようにしたい。第三場面は、助かった後の場面である。紳士の発言や様子から人となりをおさえ、賢治の作品に対する思いや自分の考えをもたせるようにしたい。

第Ⅲ次では、第Ⅱ次で読み取った主教材の内容をふまえ、同一作家の複数教材を読み取る活動に入る。賢治の六つの作品（「どんぐりと山猫」「よだかの星」「セロ弾きのゴーシュ」「オツベルと象」「猫の事務所」「なめとこ山の熊」）の中から、読みたいものを一つ選び、賢治の表現のよさや効果的な表現などを感じ取って読むようにしたい。また、主教材と比べて賢治の表現のよさや効果的な表現が、どのように作品に表れているか考えながら読ませたい。このように比べ読みをすることで、主教材との共通点や相違点が明確になり、さらに読みが深まると考える。これらの本は城東図書館などからも借りて、できるだけ一人一冊手に取れるようにしておく。読みたい本が選びにくい児童へは、読みの実態を考慮してブックトークをしたり、あらすじを少し書いたヒントカードを用意したりして読み進めやすくなるよう支援を行っていきたい。また、今まで学習した読み取りのポイントをまとめた「ガイドブック」を参考にするように助言し、自分の読みを確かなものとなるよう関連付けていくようにしたい。

「ガイドブック」を活用しながら一人学びをし、同じ作品を選んだ児童でグループを作り、話し合いをして交流させたい。そうすることで、自分一人では気付かなかったことにも目を向けることができ、読みを深めたり広げたりすることができると思う。また、交流することにより相互評価ができ、自分の読みを確かめることができると思える。そして、「注文の多い料理店」と読み比べてわかったことをグループで発表するためにまとめる。その際、まとめ方がわかるように主教材と副教材を読み比べた内容をまとめたものを提示するようにする。そして、「発見！！あるある賢じ典」を開き、全員の前で発表する。自分が読んでいない作品にもふれることで、賢治作品の表現のすばらしさを広く味わうことができ、「友だちの読んだ作品も読んでみよう」と読書意欲が高められると思える。

宮沢賢治は、独自の表現方法を持ち、効果的な表現を最大限に活かして作品を作っている。その表現を存分に発見させ、賢治の作品の世界を味わうようにしたい。

このように読みの視点を明確にして読み比べを行うことにより、物語の内容を味わいながら読み、作者の意図を考えながら深く読解することができるようにしたい。そして、本単元の学習をきっかけに、他の作家の作品についても読み広げ、読書意欲を高めていくこともめざしている。

6. 単元指導計画（全14時間 内 朝の会20分）

次	時	学習活動	指導上の留意点 (指導者の発問・指示・支援)	評価の場面や方法
		学習課題 『注文の多い料理店』を読み、興味をもったところや疑問に思ったところを話し合い、学習の計画を立てよう。 評価規準 関： 宮沢賢治の作品に興味をもち、自分なりに学習課題をもとうとしている。 読： 物語のあらましをつかみ、自分の感想や疑問を書いている。 話・聞： 初発の感想を交流している。		

朝の会 20分	1. 賢治ワールドに気付かせるために、いくつかの本をブックトークする。	○ これからの活動に興味をもてるように特徴のある本を選ぶ。 ○ 賢治についてのガイダンスを行う。	・ 興味をもって聞いている。【学習の様子】
I	1 2. 教材文『注文の多い料理店』を通読し、感想や疑問を書き、学習課題をつかむ。	○ 全文を通読し、心に残ったことや疑問などを話し合い、学習の課題をつかむようにする。	・ 自分の感想や疑問を書いている。【ノート①】
	2 3. 学習の計画を立てる。	○ 感想などを交流する。 ○ 既習の物語文の学習を振り返って、着目すべき表現や読み取りの視点について考えるように支援し、学習の計画を立てるようにする。	・ 読みのめあてや方法について考え、話し合っている。【ノート②】【発言】 【やったね！カード①②】
II	<div data-bbox="272 891 1453 1169" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習課題 宮沢賢治の表現のおもしろさを知り、『注文の多い料理店』を読もう</p> <p>評価規準</p> <p>関： 表現のおもしろさに着目し、読み進めようとしている。</p> <p>読： 心情や情景を表す叙述に着目して、登場人物の心情や考え方などを捉えている。</p> <p>話・聞： 文章の中から気づいたことや思ったことなどを発表し、進んで話し合いに参加している。</p> <p>言： 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心を持っている。</p> </div>		
	3 4. 表現の工夫に気づきながら二人の紳士の人物像や情景描写を読み取る。 ・ 比喻 ・ オノマトペ	○ 人物の心情や考え方、生き方について読み取ることができるよう支援する。 ○ それぞれの視点（会話・行動・人物の様子）についてノートに書き込み整理できるようにする。 ○ 読みの観点（具体例、表現の工夫）のガイドブックが作れるように支援する。	・ 読みの視点について考え、ノートにまとめている。【ノート③】 ・ 細かい表現を読み取り、人物の心情や考え方などについてまとめて書いている。【ノート④】【発言】 【ガイドブック①②】 【やったね！カード③④】
	5 6. 色の効果や扉に書いてある言葉に注目し、紳士の心情を読み取る。 表現の工夫を捉える。 ・ 色 ・ 言葉遊び ・ 動物	○ 情景が捉えられやすいように扉の絵を順次提示し、色の効果に気付くようにする。	・ ノートに自分なりの方法でまとめている。【ノート⑤】 ・ 観点に沿って読み取っている。【話し合いの様子】 【ノート⑥】 【ガイドブック③④⑤】 【やったね！カード⑤⑥】
	7 6. 「注文の多い料理店」から	○ 場面の展開を表すキーワー	・ 観点にそって読みを深め

<p>本時</p>	<p>物語の構成を考え、「つり橋わたれ」の構成と比べて読む。</p> <p>7. 「つり橋わたれ」と「注文の多い料理店」の初めと終わりを読み比べ、主人公の心情の変化について読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構成 A-B-A (注文) A-B-A' (つり橋) <p>8. 登場人物の生き方や考え方から、それについて自分の意見を書く。</p>	<p>ド(風)に着目し、作品の構成に気付くようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 構成をつかみ、物語全体をつかめるようにする。 ○ つり橋を渡る前後のトッコの変化や山猫軒での出来事の前後で二人の紳士の変化を比べ、違いに気付く。 ○ 賢治の二人の紳士への思いを読み取り、結末について自分の考えを述べるようにする。 	<p>ている。</p> <p>【発言】【ノート⑦】 【ガイドブック⑥】 【やったね！カード⑦】</p> <p>・登場人物の生き方や考え方から、それについて自分の意見を書いている。</p> <p>【発言】 【ノート⑧】 【やったね！カード⑧】</p>
<p>III</p>	<p>9. 賢治のその他の作品を読みひたる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要約 [一人学び] ・要約 ・発見した表現 <p>10. 作品ごとにグループで意見交流し、作品の特徴などを話し合う。[グループ学習]</p>	<p>○ 物語を要約し、それをあらすじと言うことをおさえる。</p> <p>○ 学習した読み取りの方法(ガイドブック)を生かして、読むように助言する。</p> <p>○ 作品ごとにグループを作り、意見交流がスムーズにできるように、話し合いのルールを提示する。</p> <p>○ グループで交流した意見が聞き手にわかるようにまとめるように支援する。</p>	<p>学習課題 宮沢賢治のいろいろな作品を読み、表現のおもしろさを交流し合うことができる。</p> <p>評価規準 関： 賢治の作品を選んで読み広げようとしている。 読： 表現にこだわりながらイメージを豊かに読んでいる。 話・聞： 友だちにわかりやすく本の紹介をしている。</p> <p>・自分の興味のある作品を選び、進んで読んでいる。 【読書の様子】 【ノート】 【ヒントカード】 ・学習した読み取りの方法を生かして読み、自分なりにまとめている。 【ガイドブック+α】 【やったね！カード⑨⑩】</p> <p>・自分の考えをもとに進んで話し合いに参加している。 【発言】 【やったね！カード⑪】</p> <p>・聞き手にわかるように交流した意見をまとめている。 【活動の様子】 【発表用紙】 【やったね！カード⑫】</p>

13 14	<p>1 1. グループで作成した「発見！！あるある賢じ典」を発表する。</p> <p>1 2. 学習を振り返り、わかったこと感想などをまとめる。</p>	<p>○ 本の紹介を交えて、自分たちの意見を発表できるように助言する。</p> <p>○ 他のグループがまとめた内容について簡潔にメモを取るように助言する。</p> <p>○ 質問や意見など積極的に交流できるようにする。</p> <p>○ 6年生で学習する宮沢賢治の伝記の学習に興味をもてるようにする。</p>	<p>・ 教材文で学んだ表現の工夫を発表の中に生かしている。</p> <p>【発表の様子】 【ノート⑧】</p> <p>・ 学習を振り返り、表現の工夫に着目して読んだかななどを自己評価している。</p> <p>【やったね！カード⑬⑭】</p>
----------	---	---	--

7. 本時の学習（第7時間目）

(1) 目標

- 「つり橋わたれ」を手がかりに「注文の多い料理店」の物語の構成を読み取ることができる。

(2) 展開

学習活動 (主な言語活動に○)	指導上の留意点 (指導者の発問・指示・支援)	評価の場面や方法
<p>学習課題 キーワードと「つり橋わたれ」を手がかりに「注文の多い料理店」の物語のしかけを読み取ろう。</p> <p>評価規準</p> <p>関： 物語に隠されたのしかけを探そうとしている</p> <p>読： 登場人物の様子や出来事から場面の構成をとらえている。</p>		
<p>1. 本時の学習課題を確認する。</p> <p>2. 「注文の多い料理店」と「つり橋わたれ」に出てくるキーワード（同じ言葉のくり返し）に気付く。</p> <p>3. 「つり橋わたれ」の構成を考える。</p> <p>4. 「注文の多い料理店」の構成を考える。</p> <p>5. 「注文の多い料理店」と「つり橋わたれ」の構成を読み比べる。</p> <p>・構成 A-B-A（注文） A-B-A'（つり橋）</p> <p>6. 本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「注文の多い料理店」の物語の組み立てを考えて読みを深めることを確認する。 ○ 「つり橋わたれ」と同じようにキーワード（風）で場面が転換していることに気づくようにする。 ○ キーワード・キーセンテンスに着目して、おおまかな内容（出来事や出来事の前後で変わったところ）を捉えるようにする。 ○ 「はじめ・なか・おわり」のしかけであることを確認する。 ○ おおまかな内容（出来事や出来事の前後で変わったところ）を捉えるようにする。 ○ はじめとおわりと比べて結末の違いに気づくようにする。 ○ 本時に見つけた「しかけ」を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ キーワード、キーセンテンス ・ はじめ - なか - おわり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ言葉のキーワードに気付き線を引いている。 【音読ファイル】 ・ 観点に沿って読みを深めている。 【発言】 ・ キーワード・キーセンテンスの前後の場面で登場人物の様子や性格がどう変化したか読み取ることができる。 【ノート】【発言】 ・ キーワードの前後の場面で登場人物の様子や性格がどう変化したか読み取ることができる。 【ノート】【発言】 ・ 「つり橋わたれ」は変わったが、「注文の尾降り料理店」は変わらなかったことに気付く。 【発言】 ・ ガイドブックに本時のまとめを書いている。 【ガイドブック】 【やったね！カード】

8. 板書計画や評価資料など

<p>成長していない</p> <p>変わっていない</p>	<p>成長していない</p> <p>・動物をお金で買って いた</p> <p>おわり 現実</p> <p>風</p> <p>・山猫にたべられそう になった</p> <p>・自分の都合のいいよ うに考える</p> <p>なか 非現実</p> <p>風</p> <p>・山で迷ってしまう</p> <p>・動物をころして楽し い</p> <p>はじめ 現実</p> <p>注文の多い料理店 二人のしんしの様子</p>	<p>学習のめあて キーワードと「つり橋わたれ」を手がかりに「注 文の多い料理店」の物語のしかけを読み取るう</p>
<p>成長した</p> <p>変わった</p>	<p>成長した</p> <p>・友だちと遊べるよ うになった</p> <p>おわり 現実</p> <p>風</p> <p>・つり橋を渡れるよう になった</p> <p>・男の子と出会った 橋を渡っていた</p> <p>なか 非現実</p> <p>風</p> <p>・友だちと遊べなかつ た</p> <p>・つり橋が渡れなかつ た</p> <p>はじめ 現実</p> <p>つり橋わたれ トッコの様子</p>	

- ※ 注文～は、出来事と心情にわけて書いていく。
- ※ 注文～は、二人の紳士の考え方をおさえる。
- ※ しかけが分かれば良い。+α 作者の意図の差

おさえる順番

<p>《キーワード》</p> <p>① 風 風はどのようなはたらきをしているのだろう。 今日は、風を出した理由を考えよう。</p> <p>《つり橋》</p> <p>② (はじめ) 渡れなかった</p> <p>③ (なか) 男の子に出会った</p> <p>④ (おわり) 渡れるようになった</p> <p>⑤ 〈はじめ—なか—おわり〉を構成という。 構成に気付かせるためのきっかけを「しかけ」 という。 現実—非現実—現実</p>	<p>《注文～》</p> <p>⑥ つり橋と一緒に違うか 注文～もはじめ・なか・おわりで、 現実・非現実・現実になっている。 二人の紳士の考え方や出来事は？</p> <p>⑦ (はじめ) 山の中に入ったときの紳士 の考え方は？</p> <p>⑧ (なか) 山猫に食べられそうになった ときの考え方は？</p> <p>⑨ (おわり) 山の中に入ったときの紳士 の考え方と同じ</p> <p>⑩ 同じしかけ‘風’の文だけど、主人公 自身の変化を比べると違うところは は？</p> <p>《次回》 顔がくしゃくしゃになったままのし んしについて考えよう。</p>
--	--